

それは、神の拳を継ぐ者たちの、壮絶なる宿命の物語



救世主伝説

北斗の拳

ラオウ伝 殉愛の章

声の出演：阿部 寛(ケンシロウ)、柴咲 コウ(レイナ)、宇梶 剛士(ラオウ)

原作：武論尊・原哲夫 / 製作：株式会社ノース・スターズ・ピクチャーズ / アニメーション制作：株式会社トムス・エンタテインメント / 監督兼演出：井本 満、堀江 信彦 / 監修：今村 隆寛 / アニメーションプロデューサー：吉岡 昌仁 / 制作プロデューサー：山本 秀基、宮 直樹

脚本：堀江 信彦、鴨 義信、真辺 克彦 / 作画監督：佐藤 正樹 / 音響監督：小山 信 / 音楽制作：HALF H・P STUDIO / 美術監督：坂本 信人 / 撮影監督：佐藤 正人 / 編集：田熊 純 / キャラクターデザイン：荒木 伸吾、香川 久、清水 貴子、佐藤 千春

配給：東宝

©武論尊・原哲夫/NSP 1983. ©NSP 2006



www.hokuto-no-ken.jp

壮大にして壮絶なる拳闘叙事詩第一章!

— 神の拳を継ぐ者たちの、新たなる伝説が幕を開ける —

世界大戦後の荒廃した近未来。そこは国家も社会秩序も崩れ去り、混沌と狂気が支配する暴力の荒野と化していた。そんな中に救世主として人々に希望の光をもたらす一人の男が現れる。彼こそ千八百年もの長きに渡り一子相伝によって密かに伝えられた究極の暗殺拳“北斗神拳”…人体の経絡秘孔に衝撃を与えることにより肉体の内部から破壊することを極意とする地上最強の必殺拳…その正統伝承者=ケンシロウであった。彼の前に立ち塞がる強敵たちとの壮絶な死闘の旅路を、圧倒的迫力のバトルアクションとカタルシス溢れる人間賛歌のドラマで綴った拳闘叙事詩<バトルサーガ>、それが「北斗の拳」だ。漫画「北斗の拳」が最初に発表された1983年から20年の時を経た現在、私たちが生きている“今”とは、どのような時代なのだろうか。不安定な世界経済、政治の混沌、あふれかえる情報と物質的飽和、そして未だ世界の至る所で戦火が止まない現実…この現状は「北斗の拳」の舞台と何ら変わらないのではないだろうか。暴力の荒野の中、孤独に愛を叫び闘い続ける主人公ケンシロウに、あなたはきっと心を打たれることだろう。なぜならその叫びこそが、あなた自身の魂の叫びに他ならないからだ。



世紀末覇者・ラオウ

北斗神拳伝承者ケンシロウ

STORY

救世主と覇者——相容れぬ道を歩む兄と弟。その闘いは避けられぬ宿命だった…

最強の暗殺拳・北斗神拳の師父リュウケンが男子に恵まれず、伝承者候補として3人の養子を鍛えてきた。長兄ラオウ、次兄トキ、末弟ケンシロウ。やがて三人が成長した時、リュウケンは正統伝承者としてケンシロウを選んだ。この決定が三人の“北斗の男”の運命を大きく翻弄することとなった。

ケンシロウは流浪の旅のなかで民衆とともに戦い続け、いつしか救世主と呼ばれる道を歩いていた。一方ラオウはリュウケンと決別、自らを拳王と名乗り、その凄絶なまでの剛拳で戦乱の世の覇者となる野望を抱いた。そんなラオウが胸に秘めた哀しき真実を、一人の女だけは知っていた。ラオウ親衛隊を率いる美しき猛将レイナ。彼女もまた、ラオウへの愛ゆえに過酷な戦いに身を投じてゆく。

やがてラオウの覇道に立ち塞がる強敵が現れた。自らを聖帝と称する南斗聖拳最強の男・サウザー。サウザーは南斗鳳拳をふるい、多くの民衆を奴隷として聖帝十字陵の建立を企てていた。それはラオウに己の力を誇示するための宣戦布告でもあった。絶望にくれる人々は南斗白鷲拳の達人・シュウに救いを求めたが、シュウもまたサウザーの非情なる策略に命を落としてしまう。そして、ついにケンシロウが立ち上がった。ケンシロウとサウザーの凄絶な死闘。その決着を見守るラオウ。この闘いがやがてラオウとケンシロウ、恐怖の覇者と民衆の救世主という相容れぬ道を行く二人の「北斗」を、宿命の対決へと導くのであった。

南斗鳳凰拳 聖帝サウザー

北斗の次兄トキ

南斗白鷲拳 シュウ
ラオウ重猛将 レイナ

SAGA BIGINS

新アニメシリーズは5部作からなる壮大なサーガ。

第1作「ラオウ伝 殉愛の章」では、覇者として生きる道を選んでもう一人の北斗=ラオウの知られざる物語が明らかになる…。

『真救世主伝説 北斗の拳』シリーズ5部作

- 第1弾! 『ラオウ伝 殉愛の章』 2006年3月 東宝洋画系公開
- 第2弾! 『ユリア伝』 2006年冬 オリジナルビデオ発売
- 第3弾! 『ラオウ伝 激闘の章』 2007年 劇場公開予定
- 第4弾! 『トキ伝』 2007年冬 オリジナルビデオ発売
- 第5弾! 『ケンシロウ伝』 2008年 劇場公開予定

豪華CAST!!



阿部寛
ケンシロウ
柴咲コウ
レイナ
宇梶剛士
ラオウ

3月11日(土) 東宝洋画系ロードショー

フジTV 前・アクアシティお台場
シネマメディアージュ
03(5531)7878
通常料金での全席指定・定員入替制
http://www.cinema-mediage.com

©武蔵野映画/東宝/NSP 1983
©NSP 2006